

十勝の川の生き物「見る角度」ガイド ②

いろんな見方で

# 草花に会いに行こう

十勝の川をフィールドとした総合的学習のために



川の周辺にはいろいろな草や花がある

草花にはいろいろな見方がある

名前や種類がわからなくてもいいじゃない

少し近くに行ってみよう

あしたを創る 北の知恵  
北海道開発局



帯広開発建設部

## 謝 辞

本冊子の作成にあたり多大なご助力・ご助言をいただいた太田昇氏（CONE・RACトレーナー）、財団法人 十勝エコロジーパーク財団、平林照雄氏、福岡イト子氏（財団法人 日本私学研究所）、吉原利之氏（アイウエオ順）に心より御礼申し上げます。

※ CONE：自然体験活動全国協議会、RAC：川に学ぶ体験活動全国協議会

この冊子では個々の生物を紹介するのではなく、生物に対するいろいろな「見方」を紹介しています。総合的学習では決まった答えを求めることよりも、「自分で課題を見つける力」「自分で考える力」「自分で調べる力」を付けることが大切だと考えるからです。

総合的学習に限らず、それ程生物に興味がない人や、興味があっても一般的な図鑑からでは取っつきにくい人にも手に取っていただきたいと考えています。

31ページに、いくつか関連した書籍を載せてあり、また各項目ごとに参考にした文献を載せてあります。くわしく調べる際の手がかりとしてください。

### 十勝の川の生き物「見る角度」ガイド・シリーズ

- ① いろんな見方で **木に会いに行こう**
- ② いろんな見方で **草花に会いに行こう**（本書）
- ③ いろんな見方で **魚や水中の生き物に会いに行こう**
- ④ いろんな見方で **鳥に会いに行こう**
- ⑤ いろんな見方で **トンボやいろいろな生き物に会いに行こう**  
(チョウ・両生類・爬虫類・哺乳類)

## 身近な草花から見方の入門

## 草花のいろいろな見方を紹介

河原によくある花-タンポポ **タンポポなんて知ってるよ? ・ ・ 2**

一つの花、でもたくさんの花…2 背伸びしてタネをとばす…2  
北海道のタンポポと外国から来たタンポポ…3 なぜ「タンポポ」というの?…3  
タンポポのサラダとコーヒーで朝食を…3

河原によくある草-長い筒の草 **オオイタドリとヨブスマソウ ・ ・ 4**

アイヌ語で「中が空洞の茎」…4 道具として…4  
食べ物に、薬に…5 ヨブスマはコウモリ?…5 自分の感じ方を大切に…5

**危険な草を知る … 6**

毒草-一面では薬草ともなる…6 トゲのある草たち-身を守るヨロイ?…6

**遊び方を知る … 7**

草笛-曲ができれば大名人…7 草舟-工夫すると連結舟もできる…7  
花輪や草ずもう-センスと経験が勝負…7

**食べ方を知る … 8**

若芽を食べる…8 根を食べる・実を食べる…8

**使い方を知る … 9**

布、染め物、たわし、ホース…様々なものに…9  
葉にも-ただし毒にもなる…9

**花を見る … 10**

花の色…10 花の付き方…10 花の形…11  
花の模様…12 花の季節…12

**茎を見る … 13**

トゲや毛のある茎…13 筒になった茎-ストロー、ホース、笛に…13  
汁の出る茎…13

**葉を見る … 14**

これでも1つの葉-複葉…14 向かいあってつく葉-対生…14  
輪になってつく葉-輪生…15 そのほかこんな葉も…15

**実や種を見る … 16**

遠くへ広がるために-タネの工夫?…16 近づいてみると個性的な実-ギンギシの仲間…16  
様々な実、タネ…17

**根を見る … 18**

食べられる根…18 毒草と区別するために…18

**冬に見る … 19**

冬に枯れない葉…19 枯れてなお消えない草…19 冬の最後は春の訪れ…19

**生えているところを見る… 20**

水の中からも花を咲かせる…20 林の中に生える草…20 日当たりのいい湿ったところ…21  
日当たりのいい乾いたところ…21 草原から林まで…21

**虫・鳥・動物を見る … 22**

チョウの食草-幼虫の決まったメニュー…22 蜜を吸いにくる虫…22  
ストープのある休息所?…23 鳥の巣作りに利用される草…23 餌となる草…23

**さわってみる … 24**

はじける実-キツリフネ…24 ツルツル坊主-コウライテンナンショウの実…24  
つぼみの花を開く-メマツヨイグサ…24 ひつつき虫-キンミズヒキの実…24

**においをかぐ … 25**

ヨモギのにおい…25 ちょっとイヤなにおい…25

**外来種を知る… 26**

野菜として持込まれたもの…26 牧草として持込まれたもの…26  
園芸や観賞用として持込まれたもの…27 外来種は悪者?…27

**伝説を知る … 28**

言い伝えの中にある真実…28

**名前を知る … 29**

ザゼンソウ-僧が座禅をする姿に似ているため…29

**もっとくわしく知るために … 30****さくいん … 32**

# タンポポなんて知ってるよ？

タンポポはほとんどの人が知っている花です。

河原でも春になると一面真っ黄色に染めていたり、堤防を彩ったりしています。

そんなタンポポにも、まだまだおもしろいことが隠されています。

## 一つの花、でもたくさんの花



エゾタンポポの花

タンポポの花を一つ絵に描いてください、と言われたらどんな花を描きますか？ 茎の上に一つの花、そんな絵を描くのではないのでしょうか。

それもまちがいでありません。でもたくさんある花びら、実はこの花びら1枚1枚が、雄しべも雌しべももつ、1つの花なのです。



河原を一面黄色く染めるセイヨウタンポポ

## 背伸びしてタネをとばす

タンポポの綿毛に息を吹きかけて。綿毛のついたタネをとばしたことがあると思います。

タンポポの仲間は、風に乗せてタネを飛ばし、生きる場所を広げます。

しかし、ただ風を待つだけではありません。花の後一度茎を寝かせて、タネが熟したところで茎を持ち上げ、花の時よりも高く伸ばします。



アキタブキの花、フキノトウ（アイヌ語名マカヨ）もタネの時期になると高く伸び、綿毛をつける



タネと綿毛をつけ、背を高く伸ばしたエゾタンポポ

## 北海道のタンポポと外国から来たタンポポ



エゾタンポポ。昔から北海道にいた在来種



セイヨウタンポポ。外国からやってきた外来種

かわら 河原や広場、道ばたで見かけるタンポポのほとんどは、もともと外国からやってきたタンポポです。

それとは別にずっと昔から北海道で生きてきたタンポポもあります。セイヨウタンポポに比べて花の時期が短いせいか、なかなか見つけれられません。

エゾタンポポが育ちやすい環境が少なくなったようです。



エゾタンポポとセイヨウタンポポと一緒に生えている

## なぜ「タンポポ」というの？

「タンポポ」の意味。実ははっきりしていません。

昔「タナ」と呼んでいたのがタンに変わり、タネの綿毛がほほけていのでポポをつけた、とか、別名「鼓草」と呼ばれ鼓の音を表した音からタンポポとなった、とかいろいろな説があります。

フランス語では「dent de lion=ライオンの歯」と言われギザギザの葉からつけられたといえます。



エゾタンポポがつけたタネ

## タンポポのサラダとコーヒーで朝食を…

セイヨウタンポポは、昔（1800年代）札幌農学校（今の北海道大学）の教師、ペン・ブルックスがサラダの材料として持ち込んだのが、日本にやってきたきっかけだ、という説があります。

つまり（セイヨウ）タンポポはもともとヨーロッパでは野菜なのだから、当然食べられます。ただし、エゾタンポポは数が減っているのので、区別して遠慮しましょう。

- ① 生のままドレッシングであえてサラダ（苦みあり。特に日当たりの良いところのものは苦い）
- ② さつとゆでて水にさらしてアクを抜き、おひたしや酢の物、天ぷらなどに
- ③ 根をたっぷりの湯（塩ひとつまみ）でゆでて水にさらしてアクを抜き、きんぴらや炒め物に
- ④ 根を生のまま刻んで陰干しし、から煎りした後ミルでひけば「タンポポコーヒー」

さらに、葉を煎じたものは胃炎、乳腺炎に、根を煎じたものは健胃、利胆、解熱に効く薬となるといえます。

### 参考文献

「日本のタンポポとセイヨウタンポポ」 小川潔 どうぶつ社 2001  
 「改訂増補 牧野新日本植物図鑑」 牧野富太郎 著 小野 他編集 北隆館 1989  
 「新版 北海道の花(増補版)」 鮫島惇一郎・辻井達一・梅沢俊 北海道大学図書刊行会 1993  
 「日本の野生植物 草本Ⅲ」 佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1981  
 「北海道植物図譜」 滝田謙讓 自費出版 2001  
 「北海道帰化植物便覧」 五十嵐博 北海道野生植物研究所 2001

「モーリー5号」(財)北海道新聞野生生物基金 編集 北海道新聞社 2001  
 「図説花と樹の大事典」 木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996  
 「日本のチョウ」 上野明雄 小学館 1981  
 「北見の蝶」 木村辰正 北見市教育委員会 1994  
 「新版 北海道山菜実用図鑑」 山岸喬・山岸敦子 北海道新聞社 1994  
 「新版 北海道山菜図鑑」 佐藤孝夫 亜西書社 1995

# オオイタドリとヨブスマソウ

オオイタドリはタデ科、ヨブスマソウはキク科、と分類上は別のグループに分かれています。  
確かにちょっと見れば全然違うのですが、似たところもあります。

## アイヌ語で「中が空洞の莖」



こちらはヨブスマソウ。湿った林の中などに育つ。  
アイヌ語でワツカクツタル

オオイタドリはアイヌ語で「クツタル」ですが本来は「イコクツタル=節・多くある・中が空洞の莖」の意味だといわれています。十勝でいえば新得町の「屈足」もこのクツタルがからついたようです。

一方ヨブスマソウはアイヌ語で「ワツカクツタル=水・中が空洞の莖」と呼ばれます。

どちらもアイヌ語名のように中空の莖を持ち、大きく育ち、大きな葉を持ち、大きな群落を作ります。そしてどちらも山菜として食べることができます。



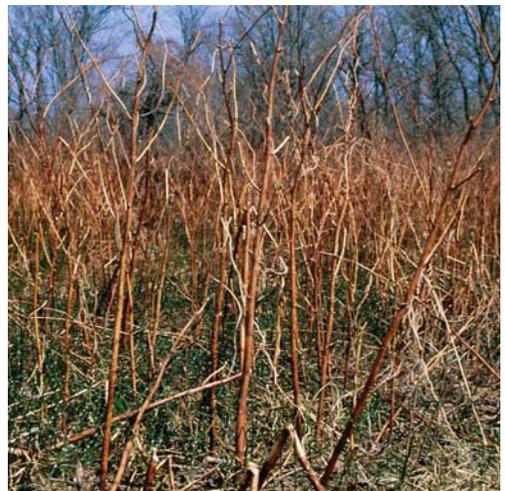
こちらは河原や堤防によく生えるオオイタドリ。  
アイヌ語でクツタル

## 道具として

どちらも莖が中空となるために、莖を取って吹いて鳴らすことができます。特にヨブスマソウは千歳地方などのアイヌ語で「チレツクツタル=我々が・鳴らす・筒(莖)」と呼ばれ、枯れた莖を1cm強に切り、吹き口を斜めにして吹き鳴らした、といいます。

また、ヨブスマソウの莖は、沢水を飲むストローや水を引くホースに使われたり、オオウバユリ(トウレア)のデンプンを蒸し焼きにする容器に使われたりするといわれています。

一方オオウバユリの枯れた莖は丈夫なために、杖に使うこともできるようです。



枯れたオオイタドリの莖

❖ 食べ物に、薬に ❖



オオイタドリの若芽



ヨブスマソウの若芽

オオイタドリは別名スカンボ(酢模)と呼ばれ、特に春、柔らかい茎をかじると、すっぱ味を感じます。

オオイタドリも、ヨブスマソウも若芽を山菜として食べられます。ゆでて水にさらし、あえ物、酢の物、汁の具に、また生のまま天ぷらに、と料理できます。

また「イタドリ」の名は「痛取り」であって、打ち身の際、葉をもんで貼り付けると痛みが取れるといます。あるいは地上部分が枯れたところ根を掘って生のまま小さく切って日干しにして、咳止め、利尿、便秘解消などの薬にできるともいます。

❖ ヨブスマはコウモリ? ❖

イタドリは上に書いたように「痛取り」ですが、ヨブスマソウはなんでしょか。

ヨブスマは「夜食」で夜具、つまりふとんのことです。ではふとん草なのかというと、そうではない、という説もあります。

もともと地方によって、コウモリやムササビといった空飛ぶ哺乳類のことをふとんに見立ててヨブスマと呼んでいるそうです。そしてヨブスマソウの三角の葉を、コウモリなどのようだというのでヨブスマソウとつけた、ともいうのです。ふとん草かコウモリ草か。どちらでしょう。



ヨブスマソウの葉(上)とモモジロコウモリ(下)

❖ 自分の感じ方を大切に ❖



オオイタドリの花(上)とヨブスマソウの花(下)

もちろん、葉の形や付き方、花の形や付き方、あるいは味、太さや固さ、などなど違いは大きいです。だからこそ専門家が分類する時、別のグループ(科)に分けたのですから。

でも、それはそれとして、自分の目で見て、あるいは使い道によって似たところがあるのなら、それも一つの「同じ仲間」ではないでしょうか。

ただ、図鑑の分類通りに分けるにしても、自分なりの分け方をするにしても、大切なのは自分でよく見ることです。その上で図鑑や本、インターネットなどで調べたり、知っている人に聞いたりしましょう。

参考文献

- 「改訂増補 牧野新日本植物図鑑」 牧野富太郎 著 小野 他編集 北隆館 1989  
 「日本の野生植物 草本Ⅱ」 佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982  
 「日本の野生植物 草本Ⅲ」 佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1981  
 「北海道植物図譜」 滝田謙讓 自費出版 2001  
 「モーリー-5号」(財)北海道新聞野生生物基金 編集 北海道新聞社 2001  
 「北海道薬草図鑑 野生編」 山岸喬 北海道新聞社 1992  
 「新版 北海道山菜実用図鑑」 山岸喬・山岸敦子 北海道新聞社 1994  
 「新版 北海道山菜図鑑」 佐藤孝夫 亜璃西社 1995  
 「アイヌ植物誌」 福岡伊子 草風館 1995

# 危険な草

## を知る

フクジュソウも毒草



□の写真は毒草

### ×× 毒草 — 一面では薬草ともなる



エゾトリカブトと山菜のニリンソウが混ざっている（円内はエゾトリカブトの花）



エゾノレイジンソウもトリカブトの一種

まちがひ 間違っ<sup>て</sup>食べると、死の危険すらあるトリカブト（北海道には9種6変種<sup>が</sup>自生）を始め、思った以上に身近な場所に、毒草は生えています。

と さい 特に山菜<sup>を</sup>採る際、少しでも不安な場合は絶対<sup>に</sup>に食べないことが大切です。よく知った人に教えてもらいましょう。

しかし、毒草は量や使い方によって（トリカブトであっても）薬となります。また、かつてアイヌの猟師<sup>は</sup>たちは、その毒を使いこなすことで獣を捕らえていました。



コウライテンナンショウ。根茎に毒があるが、そこを取って食料とした



バイケイソウ。エゾカンゾウの若芽と間違えやすい



クサノオウ。毒草だが肛門にさして痔の薬としたという

### ×× トゲのある草たち — 身を守るヨロイ？

夏、湿<sup>つ</sup>った草藪<sup>の中</sup>を歩いていて、チカチカツとしたかゆみとも痛みともつかない感じを経験した人も多いと思います。こんなちょっとさわ<sup>り</sup>たくないような草花もあります。（大ケガになるものはない）

しかし、このイラクサは山菜の一つであり、アイヌの人のめ<sup>の</sup>づくり<sup>に</sup>に欠かせない繊維<sup>にも</sup>なりました。またアカタテハやくジャクチョウのように、幼虫時にイラクサを餌とするチョウもいます。

少しイヤな草も毒草も、別の面から見ると、人にとっても自然にとっても大切な生き物なのです。



エゾイラクサ。小さなトゲにちよつとした毒がついている



アキノウナギツカミ。このヤブに入るとひっかき傷だらけに



牧草の仲間やおオヨモギは花粉症の原因となる。写真はオオヨモギ(ノヤ)

#### 参考文献

「改訂増補 牧野新日本植物図鑑」 牧野富太郎 著 小野 他編集 北隆館 1989  
「北海道植物図譜」 滝田謙讓 自費出版 2001  
「モーリー5号」(財)北海道新聞野生生物基金 編集 北海道新聞社 2001

「北海道薬草図鑑 野生編」 山岸喬 北海道新聞社 1992  
「新版 北海道山菜実用図鑑」 山岸喬・山岸敦子 北海道新聞社 1994  
「新版 北海道山菜図鑑」 佐藤孝夫 亜瑠西社 1995  
「アイヌ植物誌」 福岡イト子 草風館 1995

# 遊び方

## を知る

タネと綿毛をつけた  
セイヨウタンポポ



### 草笛 — 曲ができれば大名人



アカツメクサ



ミヤコザサ

音の出る草はいろいろあり、鳴らし方も様々です  
アカツメクサの大きめの葉(小葉)をくちびるに人  
差し指と中指で当て強く吹く。枯れたヨブスマソウを  
1 cm強に切り吹き口を斜めにして吹く(→p 4)。開く  
前のササの葉を一度開き、まき直してくわえて吹く。  
ヨシの仲間やイネ科牧草(オオアワガエリなど)の葉を  
幅2~5 mmくらいに裂いて両手の親指の2つの関節で  
はさみ、ピンと張り、すき間を強く吹く。タンポポの  
茎を切り取って少しつぶして吹く。

どんな音が出るかチャレンジしましょう。

### 草舟 — 工夫すると連結舟もできる

草舟は、普通「笹舟」といわ  
れるくらいササで作るのにむい  
ています。でも十勝の場合、川  
の近くにあまりササは生えてい  
ません。

ササほど幅がないのでちょっ  
と作りにくいですが、ヨシの仲  
間を使って作ってみましょう。



草舟の作り方(イラスト:伊藤由紀子) ミヤコザサ(左)とクサヨシ(右)

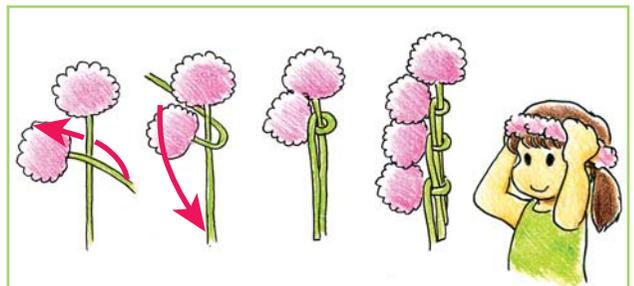
### 花輪や草ずもう — センスと経験が勝負

他にもタンポポやフキの茎を使って水車を作ったり、キンミズヒキの実をくっつけあったり、花輪を作  
ったり、葉や花に布をのせて上からたたいて染めてみたり、オオバコなどの茎を2人でからめて引っ張り  
草ずもうをしたり、草花の遊びはいくらでもあります。

どんな遊びでもそうですが、草花遊びは、必ずしも決まったパターンがあるわけではありません。どん  
な形になるのかの想像力と計画性、使う植物の大きさ、固さ、色などに関する知識が勝負です。



タンポポ水車の作り方(イラスト:伊藤由紀子)



花輪の作り方。アカツメクサやセイヨウタンポポがたくさんあ  
って、茎も長く作りやすい

#### 参考文献

「遊び図鑑—いつでも どこでも だれとでも—」 奥成達・ながたはる  
み 福音館書店 1987  
「川であそぼう(インターネット)」 <http://www.kawaasobi.jp/>

「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995  
「森林で遊ぼうシリーズ3 おもしろい草花の話」北海道立林業試験  
場 監修 北海道林業普及協会 1996

# 食べ方

## を知る

左はクサソテツ(コゴミ)、  
右はヨブスマソウ



□の写真是毒草

### 若葉を食べる



フキノトウ(アキタブキ)。フキノトウはフキの花。苦みがある。アイヌ語でマカヨ

春になり、それまで雪の下地面の中で眠っていた生きる力が少しずつ、でも力強く芽生えてきます。最も活力のある自然の恵み<sup>めぐみ</sup>をいただく、春の山菜取りは大変ぜいたくなことです。

よく似た毒草<sup>どくそう</sup>もあります。くわしく知っている人と一緒に<sup>いっしょ</sup>いて、しっかりと教えてもらいましょう。あいまいな時は決して取ってはいけません。

もちろんその草が来年以降も生き続けられるように、気を配<sup>いこう</sup>ることも忘れずに。



ニリンソウ。花がないときは、猛毒のトリカブトと間違えやすい。アイヌ語でブクサキナ他



オオアマドコロ。毒草のホウチャクソウとよく似ている。地下茎がひも状ならホウチャクソウ



オオヨモギ。トリカブトに似ている。ヨモギは葉裏に毛があり青白く見える。アイヌ語でノヤ

### 根を食べる・実を食べる

かつてアイヌの人たちにとっては、オオウバユリの鱗茎<sup>りんけい</sup>(いわばイモ)=トウレブから取るデンプンが、非常に重要な食料でした。ついてつぶして水にさらし、一番粉(イルブ)は<sup>はら</sup>腹の薬に、残ったデンプンは<sup>はつかう</sup>発酵させ<sup>えんぱんじょう</sup>円盤状にして乾燥させ、保存食にしたといいます。

その他ヤブマメ(アイヌ語でアハ)、エゾエンゴサク(トマ)、エゾノリュウキンカ(プイ)、ユキザサ(ペペロ)なども根茎や地中の「豆」<sup>まめ</sup>を掘って食料にしたといいます。



オオウバユリ。初夏に掘るといふ。アイヌ語名トウレブ



コウライテンナンショウ。塊茎には毒もありその部分を取って食料とした。アイヌ語ラウラウ



エゾノリュウキンカ。若葉は山菜ともなる。アイヌ語名プイ



ユキザサ。若葉は山菜ともなる。アイヌ語名ペペロ

#### 参考文献

「アイヌ植物誌」 福岡イト子 草風館 1995  
「北海道薬草図鑑 野生編」 山岸喬 北海道新聞社 1992  
「新版 北海道山菜図鑑」 佐藤孝夫 亜瑠西社 1995

「新版 北海道山菜実用図鑑」 山岸喬・山岸敦子 北海道新聞社 1994

# 使い方

## を知る

腹痛にも効くオオヨモギ



☐の写真は毒草

### ✂ 布、染め物、たわし、ホース … 様々なものに



繊維に使われたエゾイラクサ。トゲに触るとチカチカがゆくなる。アイヌ語名モセ



ヨブスマソウ。ホースやストローに。アイヌ語名ワッカウツタル

現代人が石油から作り、ホームセンターなどで買い求めるものも、かつての人は農産物や自然の中から素材を見つけ、作り出していました。

布の繊維はエゾイラクサ(アイヌ語名モセ)から、ササ(ウラシ)を屋根材に、トクサ(シブシブ)を歯ブラシに、ヨブスマソウ(ワッカウツタル)をホースやストローに、と生き物は様々な材料や道具になってくれます。

また、釜やナベなどがなくても、フキの葉(コルハム) 5枚くらいで、ご飯が炊けるといいます。



トクサ。歯ブラシの他に丸く束ねて汚れ物をこすったり、細工物を磨くのに使ったという。アイヌ語名シブシブ



外来種のオオアワダチソウ。葉や茎を染料に利用できる



アキタブキ。フキの葉はアイヌ語名でコルハム、フキ(の茎)はコルコニ、フキノトウはマカヨ

### ✂ 薬にも – ただし毒にもなる

植物には薬効を持つものがあります。漢方薬や生薬の多くは植物を利用したものです。

例えば実を「ひつつき虫」にしてあそびキンミズヒキには、下痢止め・止血・利胆作用や湿疹・かぶれ・火傷に効くといえます。

ただフクジュソウ(チライアパツポ)には強心作用がある反面、素人療法では死者が出ることもある程の毒草でもあります。

使用の際は、医師などの専門家に相談してください。



バイケイソウ。毒草。ウジ殺しや農薬用殺虫剤に。アイヌ語名シクツキナ



キンミズヒキ。下痢止めなどに



オオイタドリ。貼って打撲に、煎じて咳止めなど。アイヌ語名クツタル



クサノオウ。皮膚疾患・痔に。毒草でもある。アイヌ語名オトンブイキナ



フクジュソウ。強心作用。毒草。アイヌ語名チライアパツポ

#### 参考文献

「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995

「北海道薬草図鑑 野生編」山岸喬 北海道新聞社 1992

# 花

## を見る

サイハイランの花



( )内はアイヌ語名 □の写真は毒草

### 花の色



フクジュソウ(チライアパッコ)毒草



エゾノリュウキンカ(プイ<根>)



エゾタンポポ

色とりどりの花の色。黄色と白が多く次いで赤色でしょうか。青い花、また緑色の花もつけましよう。

同じ黄色や赤色といっても、またそれぞれ千差万別です。アイヌの人々はフクジュソウの輝く黄色に、神の光を感じたといひます。



ニリンソウ(プクサキナ)



ユキザサ(ベベロ<根>)



オオバナノエンレイソウ(エマウリ<実>)



バイケイソウ(シクブキナ) 毒草



ベニバナイチヤクソウ  
止血作用などがある



アカツメクサ=ムラサキツメクサ (外来種)



エゾトリカブト(スルク) 猛毒草



ツリガネニンジン(ムケカシ)

### 花の付き方

花の付き方にもいろいろあります。上向き・下向き・横向き。一つづつのもの・まとまってつくもの。茎の先で扇のように広がるもの、茎のあちこちにつくもの …。



ハクサンチドリ



ツリフネソウ



ノコギリソウ



エゾミソハギ



ヨツパヒヨドリ



スカシタゴボウ

花の形



エゾエンゴサク(トマク塊茎)  
花の後から蜜を吸える



キツリフネ

花の形も実に様々です。エゾエンゴサクなどは細長い筒形で、一番奥に蜜があります。蜜を吸いに来た虫に、たっぴりと花粉をつけるためなのかも知れません。

また、エゾノコンギクの花は一見単純そうに見えます。しかし、実は外側の花びら一つずつが独立した花で、その花びらに囲まれた黄色く丸いところも、小さな筒状の花がたくさん集まってできているのです。



ザゼンソウ。フードの中の固まりに雄しべや雌しべが集まっている



ノビネチドリ



エゾノコンギク。周りの舌状花と内側の筒状花多数からなる花



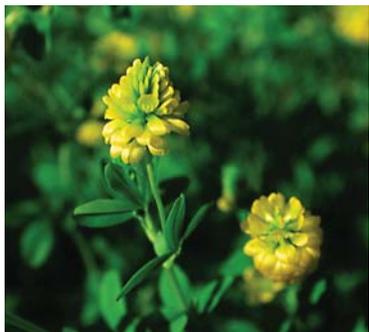
アヤメ。外側に垂れる花びら、内側に立つ花びら、目立つ雌しべ



トモエソウ。花びらがねじれる



カラマツム



クサダマツメクサ (外来種)



エゾノギシギシ (外来種)



クサヨシ。イネ科は地味だが、雄しべも雌しべもある

# 花を見る

## 花の模様



アヤメの花



ノハナショウブ。蜜のありかを教える「ガイドマーク」がある

花びらの色は一色とは限らず、何色かでもようが描かれている花もあります。

中には蜜を求め、花粉を運んでくれる虫に対するガイドの役割をするものもあるといえます。



キツリフネの花。赤い斑点がある



エゾノタチツボスミレの花



エゾスカシユリの花

## 花の季節

花は早春から夏の終わり、秋になって咲くものまで様々です。特に木の葉や草が茂る前に咲く花は、油断すると次の年まで見ることができません。こうした早春に一瞬咲く花をスプリング・エフェメラル(春の妖精)と呼びます。



アズマイチゲ  
4月中旬～5月



エゾエンゴサク(トマ(塊茎))  
4～5月



エゾタンポポ 5～6月  
(セイヨウタンポポは10月まで)



エゾスカシユリ  
6～7月



エゾトリカブト(スルク)  
8～9月中旬。毒草



エゾノコンギク  
8～10月

### 参考文献

「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995  
「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗編集 柏書房 1996  
「日本山野草・樹木生態図鑑」沼田真 全国農村教育協会 1990  
「改訂版 牧野新日本植物圖鑑」牧野富太郎 北隆館 1989  
「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本Ⅰ～Ⅲ」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1981, 1982  
「森林で遊ぼうシリーズ3 おもしろい草花の話」北海道立林業試験場 北海道林業改良普及協会 1998  
「花のおもしろフィールド図鑑 春・夏・秋」ピッキオ編著 実業の日本社 2001～2002

# 茎

## を見る



ツル性のクサフジ

アイヌ語名は ( ) 内に    の写真は毒草

### トゲや毛のある茎



エゾイラクサ(モセ)。  
触るとチカチカ痛がゆい



アキノウナギツカミ。ウナギ  
もつかめるトゲ、という名前

ツルツルの茎ばかりではありません。  
毛やトゲのある草もたくさんあります。  
それぞれにどんな役割があるのか、それ  
ともないのか、考えてみてもいいですね。



ツリフネソウ。キツリフネ  
にはこの毛がない



コウゾリナ。コウゾリとは  
カミソリで、剛毛に由来



ユキザサ(ペペロ)



クサノオウ(オトンブイキナ)  
毒草

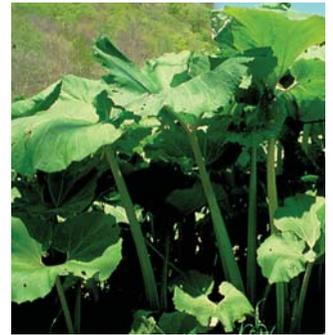
### 筒になった茎 - ストロー、ホース、笛に

切ってみるとまた違う顔が見えてきま  
す。水を吸い上げ、栄養をおろす、その  
ための道筋があるのですが、その並び方  
がいろいろあるのです。

まずは中が筒になった草を見つけてみ  
ましょう。



オオイタドリ(クツタル)。  
「クツタル」は「筒の茎」



アキタブキ(の茎=コルコニ)

### 汁の出る茎



セイヨウタンポポ (外来種)  
白い液が出る



クサノオウ(オトンブイキナ)  
毒草でも薬草でもある

切ると液体の出る草もあります。  
白い液の出るタンポポやツリガネニ  
ジン (ムケカシ)、黄色い液のクサノ  
オウなど。切って確かめてみましょう。  
ただし、クサノオウも毒草です。不用  
意になめないように。猛毒草の場合は傷  
のある手で触るのも危険です。

#### 参考文献

「改訂増補 牧野新日本植物圖鑑」 牧野富太郎 著 小野 他編集 北  
隆館 1989  
「北海道植物図譜」 滝田謙讓 自費出版 2001

「新版 北海道の花(増補版)」 殿島惇一郎・辻井達一・梅沢俊 北海道  
大学図書刊行会 1993  
「アイヌ植物誌」 福岡イト子 草風館 1995

# 葉

## を見る

左はヨブスマソウの葉  
右はミゾソバの葉



アイヌ語名は( )内に

### これでも1つの葉 - 複葉



キンミズヒキの葉。円内で一つの葉



キジムシロ。円内で一つの葉

葉にはいろいろな形があります。いわゆる葉っぱ形から、ギザギザが大きな葉、深く切れ込んだ葉など様々です。

切れ込みが深くなつた先は？小さな葉に分かれています。でもこれらの小葉（しょうよう）が集まって一つの葉なのです。



ミツバツチグリ。  
三つ葉で一つの葉



ルイヨウショウマ。  
円内で一つの葉



クサフジの葉。  
円内で一つの葉



アカツメクサ=ムラサキツメクサ(外来種)。三つ葉で一つの葉

### 向かい合ってつく葉 - 対生(たいせい)

茎からでる葉は、多くの場合一つずつ互い違いにでます(互生=ごせい)。

しかし、中には茎から向かい合って生える葉もあります。こういった生え方を対生(たいせい)と呼びます。



エゾイラクサ(モセ)。葉が向かい合う=対生



オトギリソウ。葉が向かい合  
ってつく=対生



ヒヨドリバナ。葉が向かい  
合ってつく=対生



互生のオオイタドリ  
(クツタル)

❖ 輪になってつく葉 - 輪生 (りんせい) ❖



輪生の代表(?) ツリガネニンジン (ムケカシ)



ヨツバヒヨドリ。輪生

向かい合ってつく葉のうち、2枚だけでなく3枚以上の葉が同じ高さでぐるりと茎を取り囲むように生えているものもあります。こういう生え方を輪生(りんせい)と呼びます。



クロユリ (アンラコル) 輪生



クサレダマ。輪生



互生のエゾスカシユリ。らせん状に生えていて輪生ではない

❖ そのほかこんな葉も ❖



アヤメ。葉が地面から出る



ミズバショウ(パラキナ)。葉は地面から直接出る

茎くきからではなく地面ちよくせつから直接でる葉こんしゆつよう(根出葉)、毛のある葉、黒点のある葉などがあります。あるいは、ランの仲間でありながら葉を持たないオニノヤガラもあります。



ユキザサ(ベベロ(根))。葉の裏に毛が生える



オオヨモギ(ノヤ)。葉の裏に毛が生える



オトギリソウ。葉に黒点がある



オニノヤガラ(ウニンテフ)。葉をつけない

参考文献

「アイヌ植物誌」 福岡イト子 草風館 1995  
 「図説花と樹の大事典」 木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996  
 「日本山野草・樹木生態図鑑」 沼田真 全国農村教育協会 1990  
 「改訂版 牧野新日本植物圖鑑」 牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」 滝田謙讓 自費出版 2001  
 「日本の野生植物 草本Ⅰ〜Ⅲ」 佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1981, 1982  
 「森林で遊ぼうシリーズ3 おもしろい草花の話」北海道立林業試験場 北海道林業改良普及協会 1998

# 実や種

## を見る



フクジュソウ(チライアパッポ)

アイヌ語名は( )内に  の写真は毒草

### 遠くへ広がるために — タネの工夫？



さわるとはじけるキツリフネの実  
7～9月

キツリフネの実を見つけたら、軽くつまんでみてください。はじけるように割れて中のタネが飛び出します。こうして少しでもタネを広げようとしています。

他にもハリがついて動物や人間(の服)にくっついて広がるキンミズヒキやオオダイコンソウ、小さなタネに綿毛をつけて風にとばすタンポポやアキタブキ、コウゾリナなど、それぞれ自分の子孫を広げる「技」を持っています。



「ひつつき虫」キンミズヒキの実  
8～9月



エゾタンポポ。綿毛で風に乗る  
5～7月



アキタブキ。こちらも綿毛をつける  
4～5月

### 近づいてみると個性的な実 — ギシギシの仲間

草全体や花や実も、離れてみると地味なダイオウやギシギシの仲間。しかしその実を近くでよく見ると、翼(=つばさ)つきのかわいい実で、それぞれの個性もあります。



ノダイオウ。翼は滑らかでふくらみはない。7～9月



ナガバギシギシ。中央がふくらみ、翼は滑らか。7～9月



エゾノギシギシ(外来種)。中央がふくらみ、翼にはギザギザがある。7～10月

✂ 様々な実、タネ ✂



オオバナノエンレイソウの実 (エマウリ)  
甘くておいしいという

他にもぶら下がった実・茎の先につく実、鮮やかな実・地味な実、大きな実・小さな実、食べられる実・毒のある実、等々実に様々な実があります。

花の時期だけでなく、花が終わった後の草花もよく見てみましょう。

食べられる実は、鳥や動物が吐き出したり糞として出すことでタネを広げています。それぞれの実が、どんな「くふう」や「技」を持っているのか考えてみましょう。



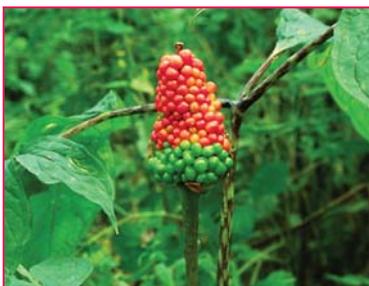
オオアマドコロの実



ユキザサの実  
(根はアイヌ語でペペロ)



カラマツソウの実



コウライテンナンショウ (ラウラウ) の実。実は毒にも薬にもなるという



オオウバユリの実 (鱗茎はトウモロコシ)  
実の中には翼つきのタネがビッシリ



ガガイモの実。中には綿毛つきのタネがつまっている。綿毛に止血効果



オオイタドリ (クツル) の実



ナズナの実。形を三味線のバチに見立ててぺんぺん草ともいう



オオダイコンソウの実。楕円形。別種のダイコンソウは球形になる

参考文献

「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995  
「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996  
「北海道薬草図鑑 野生編」山岸喬 北海道新聞社 1992  
「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001  
「日本の野生植物 草本Ⅰ～Ⅲ」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1981, 1982  
「森林で遊ぼうシリーズ3 おもしろい草花の話」北海道立林業試験場 北海道林業改良普及協会 1998

# 根を見る



クサヨシの根

アイヌ語名は ( ) 内に    の写真は毒草

## 食べられる根



オノノヤガラ(ウニンテフ)の根。アイヌのサツマイモともいわれる。痛み止めなどの薬効がある。葉を持たず、腐った植物の死体から栄養をとる。

植物はもちろん地上部分だけではありません。根を生やし、土から水や養分を得ることで生きているのです。また地下部分は、イモや球根のように、栄養分をためる役割ももっています。

山菜は地上部を採りますが、アイヌの人たちにとっては、それ以上に地下部分が重要でありました。

特にオオウバユリ(の根=トゥレフ)は、ギョウジャニンニク(キト)と並んで重要な食料源でした。

また、オノノヤガラ(ウニンテフ)は松浦武四郎の「石狩日誌」において、「アイヌのサツマイモ」として紹介されているといえます。



オオウバユリの花



オオウバユリの根(トゥレフ)

## 毒草と区別するために

山菜を採る際最も注意がいるのは毒草と間違えないことです。若芽のころを採取するので、特に見分けがつかないのです。

そんなとき、少し土を掘って根を見ると区別が付く場合があります。

ただし、栄養をためる場所は同時に毒を最もためる場所でもあります。コウライテンナンショウの根はかなり強い毒を持っていて、アイヌの人たちは毒部分を取り除いて食用にしていたといえます。

また、トリカブトは全体に毒がありますが、毒を取る場合は根から取ったようです。

手に傷があれば毒が入ることもあります。さわる時は十分に注意してください。



オオアマドコロ



毒草のホウチャクソウ

### 参考文献

「アイヌ植物誌」 福岡イト子 草風館 1995  
 「北海道生活文庫 第2巻 北海道の自然と暮らし」関秀志・矢島豊・古原敏弘・出利業浩司 北海道新聞社 1997

「北海道植物図譜」 滝田謙讓 自費出版 2001  
 「改訂増補 牧野新日本植物圖鑑」 牧野富太郎 著 小野 他編集 北隆館 1989

セイヨウタンポポの葉（ロゼット）



アイヌ語名は（ ）内に

## ❖ 冬に枯れない葉



ベニバナイチヤクソウの葉。冬を越え、春まで残る

十勝の冬といえば白と黒のモノトーンです。かろうじてマツくらいが緑でしょうか。しかし、緑を保っている草だって、雪に隠されながら（保護されながら）あるのです。



コウゾリナのロゼット葉。冬を越し、2年目に花が咲く



ミヤコザサ。枯れた周囲の白と緑のコントラストが美しい

## ❖ 枯れてなお消えない草

オオヨモギ（ネヤ）は実（タネ）をつけたまま枯れて冬を迎えます。草の実や種は、冬を越す小鳥やネズミにとって大切な餌となります。

また枯れたまま春を迎えたヨシの茎は、タンチョウ（サロルンカムイ）が身を隠し巣を作るのに利用されます。

枯れても丈夫な茎が残る  
オオイトドリ（クツタル）

冬オオヨモギ（ネヤ）の実をついばむウン



ヨシ原で営巣するタンチョウ（サロルンカムイ）

## ❖ 冬の最後は春の訪れ



フキノトウ（マカヨ）

雪は残っているが、日に日に太陽の暖かさが増してくる3月、雪のすき間からフキノトウ（マカヨ）が見えてきます。いよいよ春の訪れです。

## 参考文献

「改訂増補 牧野新日本植物圖鑑」 牧野富太郎 著 小野 他編集 北隆館 1989  
「北海道植物図譜」 滝田謙讓 自費出版 2001  
「タンチョウ そのすべて」 正富宏之 北海道新聞社 2000

「野鳥ブックス-2 フィールドガイド日本の野鳥」 高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉 (財)日本野鳥の会 1982(1994増補版7刷)  
「アイヌ植物誌」 福岡イト子 草風館 1995

# 生えている ところ

## を見る

湿った草地に広がる  
ノハナショウブ



アイヌ語名は( )内に    の写真は毒草

### 水の中からも花を咲かせる



バイカモ。右は花



水の中にもいろいろな草が生きています。その中にも、水底に根を下ろし葉も水中にあるもの=沈水植物、ヒシのように根は水底に下ろすが葉は水面に浮かすもの=浮葉植物、ウキクサのように根も水中に漂っているもの=浮遊植物、水の中から空中に葉を伸ばすもの=抽水植物、などに分かれます。

こうした水草はトンボのヤゴなどが羽化する時の登り口にもなります。



ヒシ (実=ペカンペ)



オランダガラシ (外来種) 別名クレソン



ヨシ。水中からも生える。枯れてはたまり、枯れ草と土の間のうか地面を作る

### 林の中に生える草

林の中に育つ草にとっては、木の葉が茂ると、太陽エネルギーを受ける量が減ってしまいます。まだ林が明るいうちにがんばるか、弱い光でもがんばるか、草それぞれにちがいがあります。

秋になるとあまり見られないトリカブト (スルク) も、春から初夏には、たくさん一斉に育っていることがあります。



ユキザサ (根=ペペロ)



オオウバユリ (鱗茎=トウレブ)



エゾトリカブト (スルク) 猛毒草



オオバナノエンレイソウ (実=エマウリ)

✂ 日当たりのいい湿ったところ ✂



ツボスミレ。ツボは「坪」で庭の意味



ノハナショウブ



エゾミソハギ

しづげん しっち  
湿原や湿地周辺の草原などにも様々な植物が生育しています。

✂ 日当たりのいい乾いたところ ✂

かわ 乾いた草原、ていぼう 堤防の斜面などでよく見られる草です。  
がいらいしゆ 多くの外来種もこうしたところに見られます。



エゾスカシユリ



アヤマ



スミレ



エゾタンポポ



オオイタドリ (クッタル)



セイヨウタンポポ (外来種)



オオアワダチソウ (外来種)  
他の植物を枯らす、やがて自分も枯らすという

✂ 草原から林まで ✂



エゾノタチツボスミレ。春から初夏

夏の間じゅう堂々と生えているもの、他の植物が生える前に何とか芽を出し花を咲かせるもの、様々です。



アズマイチゲ。早春だけ



クサフジ。夏真っ盛りに

参考文献

「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995  
「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996  
「北海道薬草図鑑 野生編」山岸喬 北海道新聞社 1992  
「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989  
「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本Ⅰ～Ⅲ」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1981, 1982  
「森林で遊ぼうシリーズ3 おもしろい草花の話」北海道立林業試験場 北海道林業改良普及協会 1998  
「新版 北海道の花(増補版)」鯨島惇一郎・辻井達一・梅沢俊 北海道大学図書刊行会 1993

# 虫・鳥・動物

## を見る

オオイタドリの花と  
ドロバチ科の仲間



アイヌ語名は( )内に

### ✂ チョウの食草 — 幼虫の決まったメニュー — ✂



エゾイラクサ (モセ)



チョウは成虫になると蜜などを吸いますが、幼虫の時には草や木の葉を食べます。草なら食草、木なら食樹と呼びます。食草・食樹は何でもいいわけではなく、チョウの種類によってメニューが決まっています。

モンキチョウはマメ科の仲間(クサフジやアカツメクサ)と決まっていますが、農作物や外来種でもいいという幅があります。

一方、イラクサの仲間を食草とするアカマダラなどは、イラクサがなくなってしまうと暮らしていけなくなります。

### エゾイラクサなどイラクサの仲間を食草とするチョウ



アカマダラ



クジャクチョウ



コヒオドシ

標本：吉原利之

### ✂ 蜜を吸いにくる虫 ✂

多くの昆虫にとって、花は蜜を吸うための食堂です。その代わりに、虫の方はご存じのように花粉を運びます。

蜜と雌しべ・雄しべがある場所にマークをつけているノハナショウブのような花もあり、花の奥の方に蜜を出し、もぐり込まないと吸えないようにしているキツリフネのような花もあります。

ところがマルハナバチの中には、キツリフネの花の外に穴を開け、蜜だけいただくものもいるということです。



ノハナショウブの花。黄色い着陸用「ガイドマーク」



アヤメで蜜を吸うハチの仲間



アヤメの雌しべと雄しべ



キツリフネ。花の奥に蜜がある

❖ ストープのある休息所？ ❖



ザゼンソウ。中の固まりが花の集まり（肉穂花序）で、これが発熱するのだという

ザゼンソウのフード内にある固まり。これは雄しべも雌しべもある花の集まりなのですが、これが化学反応によって熱を出しているのだといひます。

ザゼンソウは早春、まだ寒いころに咲きます。このころでは虫たちもあまり元気ではありません。少しでも暖まって元気になり、花粉を運んでもらおうということなのでしょう。

❖ 鳥の巣作りに利用される草 ❖

タンチョウはヨシやスゲ類のあるところで、枯れた茎を利用して巣作りします。アイヌ語名サロルンチリまたはサロルンカムイは、ヨシ原の鳥、ヨシ原の神という意味だといひます。またコヨシキリやオオヨシキリは、ヨシなどのイネ科植物の葉や茎を使った巣を作ります。



ヨブスマソウ（ワッカクツタル）でえさえるコヨシキリ

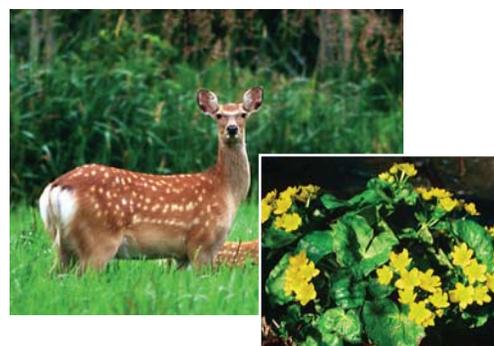


ヨシ原で営巣するタンチョウ（サロルンチリ。サロルンカムイ）



タンチョウのつがい

❖ 餌となる草 ❖



エゾシカ(ユク)(左)と好物のエゾノリュウキンカ(ブイ)(右)。草の他、樹皮も食べる



冬、オオヨモギ(ノヤ)の実をついばむウソ

草の葉や茎は、草食動物の餌となっています。エゾシカはササフキ、エゾノリュウキンカやオオイタドリなどの葉や茎を食べます。

また、冬ほとんどの植物が葉を落とし、枯れてしまった時、枯れてもまだ実(タネ)をつけているオオヨモギ(ノヤ)は、冬を越す小鳥の貴重な餌となります。

参考文献

「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995  
 「改訂版 牧野新日本植物圖鑑」牧野富太郎 北隆館 1989  
 「日本の野生植物 草本Ⅰ～Ⅲ」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1981, 1982  
 「森で遊ぼうシリーズ3 おもしろい草花の話」北海道立林業試験場 北海道林業改良普及協会 1998  
 「新版 北海道の花(増補版)」鯨島惇一郎・辻井達一・梅沢俊 北海道大学図書刊行会 1993

「花のおもしろフィールド図鑑 春」ピッキオ 実業之日本社 2001  
 「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994  
 「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985(1995 2版21刷)  
 「日本動物大百科2 哺乳類Ⅱ」日高敏隆 監修 平凡社 1996  
 「しれとこらいぶらりー② 知床の哺乳類Ⅰ」斜里町立知床博物館編 北海道新聞社 2000  
 「タンチョウそのすべて」正富宏之 北海道新聞社 2000

# さわって

# みる

さわりたくない  
エゾイラクサ



アイヌ語名は( )内に    の写真は毒草

## ×× はじける実 — キツリフネ ××××××××××××××××××××××××



キツリフネの実



はじけたキツリフネの実



キツリフネの花

キツリフネの実らしきものを見つけたら、さわってみてください。  
しゅんぱん瞬間的にタテに割れ、わタネがはじけ飛びます。

## ×× ツルツル坊主 — コウライテンナンショウの実 ××××××××××××××××××××××××

秋、まっすぐ伸びた茎の上に真っ赤な丸い実がたくさん付いたコウライテンナンショウ(ラウラウ)を見つけたら、なでてみてください。独特のツルツル感が気持ちいいですよ。

ただし、毒(薬効も)があるので色につられて食べないように。



コウライテンナンショウ(ラウラウ)の実



なでてみる子どもたち(道立十勝エコロジーパークの自然観察会より)

道立十勝エコロジーパーク：十勝川中流域にある、自然と人間との共生の理念を受けとめその実現を目指す公園。道立公園

## ×× つぼみの花を開く — メマツヨイグサ ××××××××××××××××××××××××



メマツヨイグサ(外来種)の花とつぼみ

マツヨイグサ(待宵草)の名の通り、夕方を待って花を広げる草です。

いたずらして開きそうなつぼみを開いてみましょう。中にうまくたたまれていた花を昼間に咲かせることができます。ちょっとかわいそうですが、実に強い草なのであまり遠慮はいりません。

## ×× ひっつき虫 — キンミズヒキの実 ××××××××××××××××××××××××

キンミズヒキの実にはトゲがあり、服にくっつきます。友達にぶっつけてみてください。

アメリカセンダングサの草むらを歩いた後は、服についた実が取れなくて取れなくて大変です。

そのほかコウゾリナなど毛の生えた草もいろいろ感触が楽しめます。ただしイラクサ(モセ)の仲間にさわるとしばらく痛がゆいです。



キンミズヒキの実



アメリカセンダングサ(外来種)

### 参考文献

「アイヌ植物誌」 福岡イト子 草風館 1995  
「花のおもしろフィールド図鑑 春・夏・秋」 ピツキオ 実業之日本社 2001~2002

「森林で遊ぼうシリーズ3 おもしろい草花の話」 北海道立林業試験場 北海道林業改良普及協会 1998

# におい

## をかぐ

ウド (チマキナ)



アイヌ語名は ( ) 内に    の写真は毒草

### ヨモギのにおい



オオヨモギ (ノヤ) の若芽



オオヨモギの葉の裏には細かい毛が生えている

山菜の中でも比較的簡単に採ることができるのがオオヨモギ (ノヤ) です。ヨモギを摘んだら指先でつぶしてにおいをかいでみましょう。草のにおいが特に強く香り、気持ちが悪くなります。

アイヌの人たちは、この強いにおいには魔よけの力があると信じていたといえます。



成長したオオヨモギ

※: 夏の花粉の時期には、花粉症のおそれがあります。気をつけてください

### ちょっとイヤなにおい

花の香りは必ずしもいいにおいとは限りません。

独特の風情をもつクロユリ (アランコリ) に鼻を近づけるとイヤな臭いがします。また、ザゼンソウには「キャベツの腐ったような」臭いがし、毒草のホウチャクソウの茎を摘むと悪臭がします。

他にも、これも毒草である、バイケイソウ (シクブキナ) の花にも異臭があるといえます。



クロユリ (アランコリ)



ザゼンソウ



ホウチャクソウ。毒草



バイケイソウ (シクブキナ) 毒草



※: エゾトリカブトには蜜にも花粉にも毒があります。花のにおいをかがないように

#### 参考文献

「アイヌ植物誌」 福岡イト子 草風館 1995  
「改訂増補 牧野新日本植物圖鑑」 牧野富太郎 著 小野 他編集 北隆館 1989  
「北海道植物図譜」 滝田謙讓 自費出版 2001

「新版 北海道山菜図鑑」 佐藤孝夫・小林隆正・久保秀樹 亜璃西社 2002  
「北海道薬草図鑑 野生編」 山岸喬 北海道新聞社 1992  
「花のおもしろフィールド図鑑 春」 ピツキオ 実業之日本社 2001

# 外来種

## を知る

ワスレナグサも外来種



### 野菜として持ち込まれたもの



河川敷のタンポポ畑。セイヨウタンポポ

外来種とは、もともと日本の自然の中にはなかった生き物のことです。その中で、日本の風土が適して、いつの間にか野生化したものも多くあります。(⇒ 在来種)

農産物のほとんどは外来種です。毎日食べる米ももともと日本の自然にはありません。

セイヨウタンポポももとは野菜として持ち込まれたという説があります。19世紀後半に、札幌農学校（今の北大）のアメリカ人教師がサラダの材料として栽培したということです。生は少し苦いですが、アク抜きして食べてみませんか？



セイヨウタンポポ。花下の総苞片(そうほうへん)がそりかえる



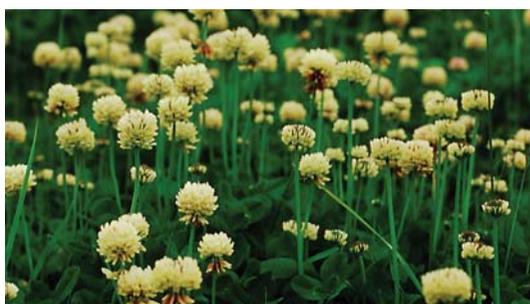
エゾタンポポ(在来種)。総苞(そうほう)がささくれず丸い



オランダガラシ(別名クレソン)は明治時代、軽井沢などの外国人居留地が始まりだという

### 牧草として持ち込まれたもの

牛や馬の餌となる牧草も、外国から持ち込まれました。これらは牧草としての他に、土を盛って道路や堤防を作った時に、斜面が崩れないようにするためにも利用されています。



シロツメクサ。牧草名はホワイトクローバー



カモガヤ。牧草名はオーチャードグラス



オオアワガエリ。牧草名はチモシー



アカツメクサ(ムラサキツメクサ)。牧草名はレッドクローバー

✂ 園芸や観賞用として持ち込まれたもの ✂



ヤエザキオオハンゴンソウ。  
別名ハナガサギク（花笠菊）

人の目を楽しませるために持ち込まれたものが野生化しました。元々あった在来種に比べて、派手な感じのするものも多いようです。



オオハンゴンソウ。ヤエザキオオハンゴンソウのもと。これも外来種



もともと日本にあったハンゴンソウ



ヒメジョオン。別名、柳葉姫菊



オオアワダチソウ



ムシトリナデシコ

✂ 外来種は悪者？ ✂



オオアワダチソウの群落。他の植物を排除し自分だけになる。最後は自滅するという

外来種が野生化するということは、その分昔からあった草の育つ場所が減ることになります。では、外来種が悪いのでしょうか。

確かに中にはオオアワダチソウのように他の植物を枯らす性質のものもあります。（最後は自分も枯れるといえます）

しかし、エゾタンポポが減った原因はセイヨウタンポポのせいではなく、育つ環境が減ったからだといわれています。

私たちが毎日食べる農産物は、もとをたどればほとんど外国産のものです。また、自然を変えてきたのも、私たちが暮らしやすくするためです。

場合によっては外来種を取り去ることも必要かも知れませんが、しかし、その外来種がそこにある意味はよく考えてみなくてはなりません。

参考文献

「日本のタンポポとセイヨウタンポポ」 小川潔 どうぶつ社 2001  
 「北海道帰化植物便覧」 五十嵐博 北海道野生植物研究所 2001  
 「原色日本帰化植物図鑑」 長田武正 保育社 1976  
 「名前といわれ 野の草花図鑑 1～5」 杉村昇 偕成社 1985-1992  
 「図説花と樹の大事典」 木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996

「改訂版 牧野新日本植物圖鑑」 牧野富太郎 北隆館 1989  
 「北海道植物図譜」 滝田謙讓 自費出版 2001  
 「日本の野生植物 草本Ⅰ～Ⅲ」 佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1981, 1982  
 「新版 北海道の花(増補版)」 鮫島惇一郎・辻達一・梅沢俊 北海道大学図書刊行会 1993

# 伝説

## を知る

オオウバユリ（トウレブ）の花



### ❖ 言い伝えの中にある真実

草には様々な伝説があります。これは、昔の人々が、自然に対しておそれと尊敬の気持ちを持ち、何より自然を身近に感じていたからでしょう。

伝説には、その草の持つ特徴や人との関わりが色濃く現れています。そして、伝説から自然との

つきあい方を学び、人としての生き方も学んでいけます。

ここでは、福岡イト子さんの「アイヌ植物誌」（草風館 1995）から、山菜を採る際の注意が示してある物語を引用・紹介します。

私たちは、ウェンクル（貧乏な・人）のウムレックル（夫婦）であった。〈中略〉

ある夜、太い木の陰でオシッコをしていると〈中略〉浜のカラスが、「近頃、山のコタンで何か変わったことがあるかい」と、山のカラスに聞いた。

「コタンコンニシパ（コタン・をもつ・長者＝村長）が意識を失って、今にも死にそうだが、コタンの人たちは何もできずにいる」と答えた。

「人間たちはそんなこともわからないのか。それは、ニタツウナラベ（湿地のおば）を怒らせたのが原因だ。コタンコンニシパの妻は、大変よく働く女なので、トウレブの根を小さいものまで残らず採ってしまった。それを、ニタツウナラベが怒ってコタンコンニシパを病気にしたのだ。

だから、イナウを作ってニタツウナラベに謝れば、病気が治るだろう」と浜のカラスはいった。

〈中略〉私はコタンコンニシパの家にいって、カラスの話を教えようとした。

ところが、家に着くと、集まっていたコタンの女たちが「ウェンクルが何しに来た。帰れ、帰れ」といって入れてくれない。

すると、そこへコタンコンニシパの妻が出てきて「夫のために何かしてくれようというのならばどうぞはいつてください」といって入れてくれた。

私がカラスの会話を話して聞かせると、コタンコンニシパの妻は、さっそく若い者にイナウを作らせて、カムイノミ（神への祈り）をさせた。

すると、まもなくコタンコンニシパは元気になった。コタンコンニシパの妻は喜んで、私に着物やス（鍋）などいろいろなものを持たせてくれた。

私がイコイヌ（動物）の話を聞くことができるために、今では私たちがこうして、ニシパ（物持ち）になったのである。（雨竜伏古・石山キツエ）

（「アイヌ植物誌」福岡イト子 著 草風館 1995 より）

ユカラ（アイヌの詞曲）には、フキノトウ（マカヨ）が何重も葉にを包まれていることにまつわるものもあります。

「神の国にいた女神が家族の留守中に、何枚も晴れ着を羽織り人間の国に降りていった。浮き浮きして激しく踊ったために、人間の国を荒らしてしまった。そのことが兄に知られ、叱られて泣いているうちに気を失った。正気に返ると湿った地下の国にいて、父母の名を呼びながら6年後やっと地上へ出てみるとマカヨ（フキノトウ）になっていた。（語り手・砂沢クラ 旭川市近文出身）」

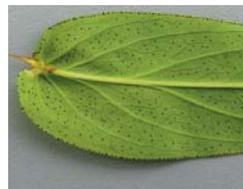
また、本州にもオトギリソウの伝説があります。

「ある鷹匠の弟が、この草を使ったタカの治療法を他の鷹匠に教えたため、怒った兄が弟を切ってしまった。葉の上にある黒点は弟の血のあとで、ここから『弟切草（おとぎりそう）』と名付けられた。」

（参考文献：「アイヌ植物誌」、「名前といわれ 野の草花図鑑3」杉村昇 偕成社 1987）



フキノトウ（マカヨ）



オトギリソウの葉

# 名前

## を知る



フクジュソウ  
(福寿草・チライアパッポ)

### ✂ ザゼンソウ — 僧が座禅をする姿に似ているため ✂

この冊子は、草花の名前を覚えようという考えでは作られていません。個々の草花の名前をわかってもらおうとも考えていません。

それより、いろいろな見方をわかることで、少し草花を身近に感じてもらおうとしています。

しかし、名前がつまらないわけではありません。名前にはその草花に対する人の思いが込められています。その草花の特徴が表されています。名前を持つ思いがけない意味を知ると、また少し、草花を身近に感じられるはないでしょうか。

草の名前	名前の意味	アイヌ語名
オオイタドリ	「大きなイタドリ」の意味。 「イタドリ」は同じくタデ科の草。 ①痛み取りの薬効があるため「痛み取り」から「疼取(いたどり)」とつけられた。 ②表皮から糸状のものを採るため「糸取り(いとどり)」から。	クツタル。 本来は「イコクツタル」で「節・多くある・中が空洞の茎」の意味。 新得町の「屈足」の語源。
フクジュソウ (毒草・薬草)	「福寿草」 ①旧暦の元日頃(新暦の1月下旬から2月中旬)姿を現し(本州以南)、新年を祝う花として正月飾りとされたため、めでたい福寿(幸福と長寿)とつけられた。 ②開花期が長いことが長寿につながり、黄金色の花が黄金に通じるとされたことから。	チライアパッポ。 「イトウ・花」の意味で、この花が咲き出すと間もなくイトウが川を遡ってくるので、漁の支度にかかれと告げているのだという。 別名 「チライウレブ(イトウ・莓)」 「チライキナ(イトウ・草)」
クサノオウ (毒草・薬草)	「草黄」葉を切ると黄色の汁を出すため。 「草王」丹毒(傷ついた皮膚に菌が入って起きる炎症)を直すから、草(瘡=かさ)の王だともいう。 ※: 瘡(かさ)皮膚病の総称。できもの	オトンプイキナ。 「肛門・草」の意味で、痔になった時、この草を肛門にさしたという。
ミズバショウ (毒草・薬草)	「水芭蕉」 湿地に生え、葉が大きくバショウ(芭蕉)の葉に似ているため。 バショウは中国原産の観賞用多年草。もともと「芭蕉」は広くバナナ類(甘蕉)を指す。	パラキナ。 「幅広い・草」の意味。 別名「イソキナ(クマ・草)」で、冬眠明けのクマが腸内の脂肪分を排泄させるために食うという。

#### 参考文献

「アイヌ植物誌」 福岡イト子 草風館 1995

「図説花と樹の大事典」 木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗編集 柏書房 1996

「北の生活文庫 第2巻 北海道の自然と暮らし」 関秀志・矢島睿・古原敏弘・出利葉浩司 北海道新聞社 1997

「改訂増補 牧野新日本植物圖鑑」 牧野富太郎 著 小野幹夫・大場秀章・西田誠 編集 北隆館 1989

「北海道の花」 鮫島淳一郎・辻井達一・梅沢俊 北海道大学図書刊行会 1993

「広辞苑 第三版」 新村出 編 岩波書店 1983

# もっとくわしく知るために

(開館日時その他の内容は変更される場合があります)

## 十勝川インフォメーションセンター (入館無料)

十勝川の水質・十勝川に棲んでいる生きた魚・多自然型工事の紹介・水辺の楽校の情報・川でのイベント紹介、十勝川のパソコンサイクイズもあります。身障者にも配慮したユニバーサルデザインによる施設づくりがされています。(お問い合わせは 0155-23-2160 まで)

また「川の駅」十勝川(帯広市指定・たびさき案内人)があります。ここでは、自然環境体験活動の「何でも相談所」として、川の学習や活動、川遊びなどに関する情報を提供しています。

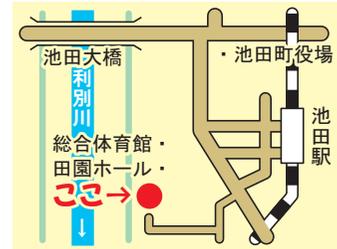


十勝川インフォメーションセンター  
開館: 9時から17時 休館: 月曜・年末年始 入館無料 ☎0155-23-2160

## 十勝川資料館 (池田町) (入館無料)

池田町の利別川沿いには、十勝川流域の自然・歴史・災害などについて模型やビデオを通して学べる「十勝川資料館」があります。

(お問い合わせは 01557-2-5713 まで)



十勝川資料館  
開館: 9時から17時 休館: 火曜・年末年始 入館無料 ☎01557-2-5713

## 北海道エールセンター

### － 子どもの水辺 地域拠点センター (入館無料)

十勝地方で川に関する様々な活動をしてきた人々の、ネットワークとノウハウを活かし、流域をフィールドとした「情報拠点」「活動拠点」「防災拠点」を創出することを目的とした地域センターです。

センターには、訓練施設、研修室(2Fリーダー研修・会議室)、救護室、キャンプ用の炊事施設、資材施設(貸出用カヌー・ラフティング・Eボート・ライフジャケット・ヘルメット等)、防災訓練施設、などが置かれます。(平成16年4月より)



北海道エールセンター(治水の森)  
開館: 7時~18時(夏)・9~16時(冬)  
休館: 月曜・年末年始 入館無料  
☎0155-20-3755

## 川や自然に関する役所

### 帯広開発建設部 治水課

十勝川水系の大きな川(十勝川、利別川、札内川、音更川)とこれらの川に流入する中小河川の下流部を管理しています。環境調査データなどについてもお問い合わせ下さい。

帯広市西4条南8丁目  
0155-24-4121(代表)

### 帯広土木現業所 治水課

十勝川水系の中小河川や大きな川の上流部と歴舟川など十勝川水系以外の川を管理しています。

帯広市東3条南3丁目1  
0155-24-3111(十勝合同庁舎代表)

### 十勝支庁 環境生活課 自然環境係

ケガをした野生鳥獣を発見した時、どうしたらいいかについての問い合わせに答えてくれます。

帯広市東3条南3丁目1  
0155-24-3111(十勝合同庁舎代表)

## 博物館など

### 帯広百年記念館

帯広の動植物情報、考古学情報、歴史情報を教えてくれます。帯広百年記念館友の会はさまざまな行事を行っていて、会報「とかちぼうず」の発行もしています。

帯広市緑ヶ丘2番地  
開館：9時～22時(展示室は9時半～16時半)  
休館：月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始  
0155-24-5352

### 帯広市野草園

緑が丘公園内のウツベツ川河畔林の自然を生かして作られた、帯広・十勝の植物を觀賞できる野外博物館です。年3回、野草園運営委員会便り「くろ百合」を発行しています。

帯広市緑ヶ丘2番地(帯広市緑ヶ丘公園西側)  
開園：9時～16時  
休園：11月から4月28日までの冬期間  
0155-24-2434(帯広市児童会館内)

### ひがし大雪博物館

上士幌町と大雪山国立公園の動植物情報を教えてくれます。ひがし大雪博物館友の会があり、観察会などの行事やニュースレターを配布しています。

上士幌町字糠平  
開館：9時～17時  
休館：4月～10月は月曜、11月～3月は月曜・祝日  
01564-4-2323

### ポロシリ自然公園

札内川水系戸蔭別川に平成14年7月からオープンした公園です。ここでは、自然体験施設が開設されていますので、戸蔭別川流域を利用した自然観察などの野外活動ができ、指導も受けられます。60人収容の研修室もあり、宿泊しての活動も可能です。

帯広市拓成町第2基線2-7  
開設期間：6月1日～9月30日  
管理人駐在時間：9:00～17:00、7・8月の週末及び夏休み期間中は6:00～23:00  
現地管理棟 0155-60-2000  
帯広市観光課 0155-24-4111

### 特定非営利活動法人 帯広NPO28サロン「まちの駅」十勝

自然体験活動に関する情報提供を行っています。

帯広市西1条南28丁目4番地  
0155-25-1455

### 日本野鳥の会 十勝支部

野鳥に関することを教えてくれます。年数回十勝管内で探鳥会を実施しています。年4回、会報「野鳥便り」を発行します。

事務局：帯広市東6条南7丁目  
0155-23-0660(アークコーポレーション内)

※その他、各市町村の施設でも川や生き物、歴史の情報を得ることができます。各市町村教育委員会などにお問い合わせください。

### 参考となる本

#### わかりやすい

「新版 北海道の花(増補版)」 鮫島惇一郎・辻井達一・梅沢俊 北海道大学図書刊行会  
「森林で遊ぼうシリーズ3 おもしろい草花の話」 北海道立林業試験場 監修 北海道林業改良普及協会  
「花のおもしろフィールド図鑑 春・夏・秋」 ピッキオ 編著 実業之日本社

#### もっと詳しく

「北海道植物図譜」 滝田謙讓 自費出版  
「日本の野生植物シリーズ 草本Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・巨理俊次・富成忠夫 平凡社  
「図説 花と樹の大事典」 木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房

#### その他

「アイヌ植物誌」 福岡イト子 草風館  
「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」 帯広百年記念館 編集・発行  
「新版 北海道山菜図鑑」 佐藤孝夫・小林隆正・久保秀樹 亜璃西社  
「北海道薬草図鑑」 山岸喬 北海道新聞社

(各項目で挙げた「参考文献」もご参照ください。なお絶版などの際はご容赦ください)

## さくいん（写真のある生き物中心）

### ア行

アカツメクサ（ムラサキツメクサ） 10, 14, 26  
 アカマダラ 22  
 アキタブキ 2, 8, 9, 13, 16, 19, 28  
   アキタブキ（花） 2  
   アキタブキ（フキノトウ） 8, 19, 28  
   アキタブキ（タネ） 16  
 アキノウナギツカミ 6, 13  
 アズマイチゲ 12, 21  
 アメリカセンダングサ 24  
 アヤメ 11, 12, 15, 21, 22  
   アヤメ（雄しべ・雌しべ） 22  
   アヤメ（葉） 15  
   アヤメ（花） 12, 22  
 ウソ 19, 23  
 ウド 25  
 エゾイラクサ 6, 9, 13, 14, 22, 24  
   エゾイラクサ（葉） 14  
 エゾエンゴサク 11, 12  
 エゾシカ 23  
 エゾスカシユリ 12, 15, 21  
   エゾスカシユリ（葉） 15  
   エゾスカシユリ（花） 12  
 エゾタンポポ 2, 3, 10, 12, 16, 21, 26  
   エゾタンポポ（タネ） 2, 3, 16  
   エゾタンポポ（花） 2  
 エゾトリカブト 6, 10, 12, 20, 25  
 エゾノギシギシ 11, 16  
   エゾノギシギシ（実） 16  
 エゾノコンギク 11, 12  
 エゾノタチツボスミレ 12, 21  
   エゾノタチツボスミレ（花） 12  
 エゾノリュウキンカ 8, 10, 23  
 エゾミソハギ 10, 21  
 オオアマドコロ 8, 17, 18  
   オオアマドコロ（根） 18  
   オオアマドコロ（花） 18  
   オオアマドコロ（実） 17  
 オオアワガエリ 26  
 オオアワダチソウ 9, 21, 27  
   オオアワダチソウ（群落） 27  
 オオイタドリ  
   4, 5, 9, 13, 14, 17, 19, 21, 22  
   オオイタドリ（枯れ） 19  
   オオイタドリ（茎） 4  
   オオイタドリ（葉） 14  
   オオイタドリ（花） 5, 22  
   オオイタドリ（実） 17  
   オオイタドリ（若芽） 5  
 オオウバユリ 8, 17, 18, 20, 28  
   オオウバユリ（根） 18  
   オオウバユリ（花） 18, 28  
   オオウバユリ（実） 17  
 オオダイコンソウ 17  
   オオダイコンソウ（実） 17  
 オオバナノエンレイソウ 10, 17, 20  
   オオバナノエンレイソウ（実） 17  
 オオハンゴンソウ 27  
 オオヨモギ 6, 8, 9, 15, 19, 23, 25  
   オオヨモギ（枯れ） 19  
   オオヨモギ（葉） 15, 25

オオヨモギ（若芽） 25  
 オトギリソウ 14, 15, 28  
   オトギリソウ（葉） 14, 15, 28  
 オニノヤガラ 15, 18  
   オニノヤガラ（根） 18  
 オランダガラシ（クレソン） 20, 26

### カ行

ガガイモ 17  
   ガガイモ（実） 17  
 カモガヤ 26  
 カラマツソウ 11, 17  
   カラマツソウ（実） 17  
 キジムシロ 14  
   キジムシロ（葉） 14  
 キツリフネ 11, 12, 16, 22, 24  
   キツリフネ（花） 12, 22, 24  
   キツリフネ（実） 16, 24  
 キンミズヒキ 9, 14, 16, 24  
   キンミズヒキ（葉） 14  
   キンミズヒキ（実） 16, 24  
 クサソテツ（コゴミ） 8  
 クサノオウ 6, 9, 13  
 クサフジ 13, 14, 21  
   クサフジ（葉） 14  
 クサヨシ 7, 11, 18  
   クサヨシ（根） 18  
 クサレダマ 15  
   クサレダマ（葉） 15  
 クジャクチョウ 22  
 クスダマツメクサ 11  
 クレソン（オランダガラシ） 20, 26  
 クロユリ 15, 25  
   クロユリ（葉） 15  
 コウゾリナ 13, 19  
   コウゾリナ（ロゼット） 19  
 コウモリ（モモジロコウモリ） 5  
 コウライテンナンショウ 6, 8, 17, 24  
   コウライテンナンショウ（塊茎） 8  
   コウライテンナンショウ（実） 17, 24  
 コゴミ（クサソテツ） 8  
 コヒオドシ 22  
 コヨシキリ 23

### サ行

サイハイラン 10  
   サイハイラン（花） 10  
 ザゼンソウ 11, 23, 25  
 シロツメクサ 26  
 スカシタゴボウ 10  
 スミレ 21  
 セイヨウタンポポ  
   2, 3, 7, 13, 19, 21, 26  
   セイヨウタンポポ（タネ） 7  
   セイヨウタンポポ（ロゼット） 19

### タ行

タンチョウ 19, 23  
   タンチョウ（つがい） 23  
 ツボスミレ 21  
 ツリガネニンジン 10, 15

ツリガネニンジン (葉) . . . . .	15
ツリフネソウ . . . . .	10, 13
トクサ . . . . .	9
トモエソウ . . . . .	11
ドロバチ科の仲間 . . . . .	22

### ナ行

ナガバギシギシ . . . . .	16
ナガバギシギシ (実) . . . . .	16
ナズナ . . . . .	17
ナズナ (実) . . . . .	17
ニンソウ . . . . .	6, 8, 10
ノコギリソウ . . . . .	10
ノダイオウ . . . . .	16
ノダイオウ (実) . . . . .	16
ノハナショウブ . . . . .	12, 20, 21, 22
ノハナショウブ (花) . . . . .	22
ノビネチドリ . . . . .	11

### ハ行

パイカモ . . . . .	20
バイケイソウ . . . . .	6, 9, 10, 25
バイケイソウ (若芽) . . . . .	6
ハクサンチドリ . . . . .	10
ハナガサギク (ヤエザキオオハンゴンソウ) . . . . .	27
ハンゴンソウ . . . . .	27
ヒシ . . . . .	20
ヒメジョオン . . . . .	27
ヒヨドリバナ . . . . .	14
ヒヨドリバナ (葉) . . . . .	14
フキノトウ (アキタブキ) . . . . .	8, 19, 28
フクジュソウ . . . . .	6, 9, 10, 16, 29
フクジュソウ (実) . . . . .	16
ベニバナイチヤクソウ . . . . .	10, 19
ベニバナイチヤクソウ (越冬葉) . . . . .	19

ホウチャクソウ . . . . .	18, 25
ホウチャクソウ (根) . . . . .	18
ホウチャクソウ (花) . . . . .	18

### マ行

ミズバショウ . . . . .	15
ミズバショウ (葉) . . . . .	15
ミゾソバ . . . . .	14
ミゾソバ (葉) . . . . .	14
ミツバツチグリ . . . . .	14
ミツバツチグリ (葉) . . . . .	14
ミヤコザサ . . . . .	7
ミヤコザサ (葉) . . . . .	19
ムシトリナデシコ . . . . .	27
ムラサキツメクサ (アカツメクサ) . . . . .	10, 14, 26
メマツヨイグサ . . . . .	24
モモジロコウモリ (コウモリ) . . . . .	5

### ヤ行

ヤエザキオオハンゴンソウ (ハナガサギク) . . . . .	27
ユキザサ . . . . .	8, 10, 13, 15, 17, 20
ユキザサ (葉) . . . . .	15
ユキザサ (実) . . . . .	17
ヨシ . . . . .	19, 20, 23
ヨシ (ヨシ原) . . . . .	19, 23
ヨツバヒヨドリ . . . . .	10, 15
ヨツバヒヨドリ (葉) . . . . .	15
ヨブスマソウ . . . . .	4, 5, 8, 9, 14, 23
ヨブスマソウ (葉) . . . . .	5, 14
ヨブスマソウ (花) . . . . .	5
ヨブスマソウ (若芽) . . . . .	5

### ラ行

ルイヨウショウマ . . . . .	14
ルイヨウショウマ (葉) . . . . .	14

十勝の川の生き物「見る角度」ガイド②

## いろいろな見方で草花に会いに行こう

2004年(平成16年)2月 初版発行

発行：北海道開発局 帯広開発建設部

〒080-8585 北海道帯広市西4条南8丁目

Tel.0155-24-4121 (代表) Fax.0155-27-2377

編集：財団法人 北海道開発協会

〒001-0011 北海道札幌市北区北11条西2丁目

セントラル札幌北ビル

Tel.(011)709-5219 Fax.(011)709-5227

いろんな見方で

# 草花に会いに行こう

新しい北海道  
北海道開発局



帯広開発建設部

危険な草を知る

遊び方を知る

食べ方を知る

使い方を知る

花を見る

茎を見る

葉を見る

実や種を見る

根を見る

冬に見る

生えているところを見る

虫・鳥・動物を見る

さわってみる

においをかぐ

外来種を知る

伝説を知る

名前を知る